

この人に 会いました



苗場スキー場 支配人

大塚 裕司 さん

1970年生まれ 新潟県十日町市出身
1989年 国土計画(株) 苗場プリンスホテル入社 (現(株)プリンスホテル)
1991年～湯沢中里スキー場
2001年～苗場スキー場
2007年 苗場スキー場支配人に就任、現在に至る

私が小学生の頃、いとこのお兄さんに連れられ苗場スキー場に行きました。そのときのイメージは、ものすごく遠い山の中にどでかいホテルがあり、リフトは長蛇の列。オシャレなウェアに身を包んだ大人が大勢いてヒラヒラのリフト券をストックに貼り付けている。普段は自宅の裏山やシングルリフト一本のスキー場で滑っていた私はその光景と雰囲気圧に倒され、いとこのお兄さん曰くその時の私は「あまりしゃべらなかつた」そうです(笑)

およそ10年後、私は生まれ育った十日町を離れ苗場プリンスホテルに入社。今年で24年が過ぎました。人生の半分以上をここ湯沢町で過ごし、もはや私の故郷です。

ブームが去りスキー客が減ったとはいえ、スキー観光が湯沢町の主要産業であることは今も昔も変わりありません。おそらく将来も。また、スキー・スノーボード(以下スキー)はとてすばらしいスポーツです。冬の素晴らしさを肌で感じ、

自然の恵みである真っ白な雪の上を自分の体で風を切り、重力に従って落ちていく。こんなに気持ちのいいスポーツはないといってもいいでしょう。このスキーの「本質」も、昔も今もそして将来もずっと変わりません。

しかしスキー産業を取り巻く環境はずいぶんと変わりました。その環境変化にスキー場、スキー産業が対応できなかった、してこなかつたことは本当に反省しなければならぬと思います。しかし先シーズンは数年ぶりにスキー客が前年比増となり、業界としても復調の兆しが見えたシーズンでした。関係者のみなさんが近年改革や努力をしてきた成果だと思えます。

これからのスキー場は「目的」から「手段」に、「スキーを滑る場所」から「スキーを滑ることで人生を豊かにできる場所」に変わらなければいけないと思います。特にお子さんの成長や家族の絆を強く、深くするのに雪山は最高の場所です。苗場スキー場・かぐらスキー場ではそんな

想いから小学生以下のリフト券を昨年から無料にさせていただきました。スキーを通じて家族や友人との楽しい時間を共有していただければと思います。

スキーと同様、ここ湯沢町はずばらしい町です。人、自然、食べ物、歴史、インフラとどれも非常に高いポテンシャルを持っています。10年20年先を考えると今あらためて自分たちの強みと資源を見つめなおし、何をすべきかを考えるタイミングではないでしょうか。

そしてこの湯沢町で生まれ育った人たちが自分の故郷に誇りを持ち、自慢できる環境づくりを進めていくことが我々世代の使命であり、未来の子どもたちに何を残せるかが今後の湯沢町をデザインしていく上でひとつの判断基準になるような気がします。

私もスキー事業者の立場から、微力ながら地域の発展、活性化のお手伝いができれば幸いです。



苗場スキー場

編集後記

9月議会定例会の後、続きざまの大きな台風に驚きました。被害にあわれた皆さまには、心からお見舞いもうしあげます。

広報研修会で、コンサルタンの先生に、広報クリニック(詳細に評価してもらう)をしていただく機会がありました。以前に比べると、なかなかの高評価で、委員一同ほっと胸をなでおろしたところです。検討、修正すべき点多々ご指摘いただき勉強になりました。

皆さまからもご意見等、お寄せ下さいますようお願いいたします。

今後も、『読んでいただける、わかりやすい議会だより』を目指してがんばります。

広報委員長 宮田眞理子

広報委員会

委員長 角谷 勉

副委員長 白井孝雄

岸野雅人・高橋綾夫

関 忠夫・宮田眞理子

編集

湯沢町議会広報常任委員会